

西多摩医師会報

1985年5月1日

4月5月合併150号

発行所・社団法人 西多摩医師会

編集委員・村山 正昭

荒巻 武彦

小林 杏一

石井 好明

堀田 洋夫

東京都青梅市西分3-103

TEL.(0428)23-2171(代)

栗原 琢磨

渡辺 良友

昭和59年度 定時総会開催

昭和60年3月23日午後2時より、西多摩医師会館において、今年度の定時総会が開催された。

内田万次議長が都合で出席されなかった為、定款にもとづき土田守一副議長を議長に、坂本 保先生を副議長として議事が運営された。

2時定刻、大塚 渉総務部長の開会宣言に続き議長団登壇、資格審査の結果、会員総数270名中150名(委任状を含む)の出席者があり、総会成立が確認された。

議事に先立ち、土田議長の指揮により、この一年間における物故会員(笹本義太郎先生、中村康平先生)の冥福を祈って黙禱を行なったあと、瀬戸岡 進会長の開会挨拶があり、その後、議事録署名人として、井上富美会員、速水完一会員が指名され、議事に入った。

西多摩医師会各部(総務、保険、学術、福祉、広報、産業医、学校医、公衆衛生、経理)の59年度事業報告がそれぞれの担当部長により行なわれ、続いて西村邦康副会長より 福生保健所の胃がん検診に関連する西多摩医師会「胃検診委員会」設置の経過報告がおこなわれた。

これらの報告事項については特に異議なく全会一致で承認された。

次に審議事項として、第1号議案 昭和60年度事業計画案について各部より趣旨説明がおこなわれた。総務部では、総会、理事会、役員協議会の

開催に関する事項、会館の管理、運営、職員人事に関する事項、各部各委員会の連絡調整に関する事項や、今年11月 西多摩医師会の主催で行なわれる予定の「三多摩医師会懇親会」に関する計画について。保険部では保険指導整備、講習会、管内自治体担当係官との連絡や懇親会等の計画について。学術部は講演会、研究会、医師会としての共同研究のテーマ作りの計画等について。

福祉部では医業経営の改善、合理化のための研究、税務講習会の開催、会員の相互扶助、親睦、福祉の為の計画等について。広報部では会報の定期刊行、住民広報紙発行の検討、住民座談会の計画等について。産業医部では産業保健活動推進の為の三者連絡協議会(青梅労規署・事業者・医師会)の形成、産業医としての契約内容、報酬の調査、研修、情報提供等に関する計画について。

学校医部では 学校保健連絡協議会、養護教諭との話し合い、研修会、調査、高校校医の組織化等について。公衆衛生部では胃がん、乳がん検診体制の確立、広報、調査、研究等について。

経理部では適正な会計処理と会費の効率的運用等について。

以上に関して質疑応答、慎重審議を経て、執行部原案どおり承認可決された。

続いて、中村 武経理部長より 第2号議案 昭和60年度収支予算案につき承認を求める件の提

(2)

案趣旨説明が行なわれ、若干の質疑応答を経て、原案どおり承認可決された。

引き続き、東京都医師会代議員および予備代議員選挙が行なわれた。これについては立候補者数が定員どおりであった為、定款施行細則第57条及び58条により無投票となり、代議員には瀬戸岡進先生、西村邦康先生、予備代議員は大塚 渉先

生、中村 武先生が当選人と決定した旨、議長より報告された。以上で議事終了、議長団降壇、江本虎雄副会長の挨拶を以て閉会し、和室において懇親会がおこなわれた。

なお、来たる5月25日(土)には臨時(決算)総会の開催が予定されている。

(堀田 記)

時 論

「医療費改定」—ひとつの視点—

3月11日の社会保険旬報に「三月医療費改定の問題点と課題」(現代医療経済研究会)という論文が掲載されています。毎年のように繰り返される医療費操作の背景や根拠、問題点等、現代の保険医療制度下における診療報酬の諸問題に関する興味深い分析が行なわれています。すでに御読みになった方もあるかと思われませんが、その概略について紹介しておきます。

最初に、「診療報酬」というものの基本的性格について述べています。つまり、診療報酬とは「保険者から委託をうけた医療機関が、患者の必要とする診療行為を行なった際に算定するものであり、それにより保険財政と医療機関の経営の安定を計ろうとするためのもの」であると規定し、今回の改定の趣旨が医療施設の有効利用と診療行為の適正な評価にあるとする場合、その意図と実際とがどれだけ合致しているかという点についての検証が試みられています。

診療報酬とは本来、保険者が患者に支払うべき「現物給付としての医療」を医療機関に委任し、診療行為別出来高払い方式により医療機関に支払う「額」であり、被保険者の家族にとっては療養費払いになっています。医療の価格は医師と患者によって自由に設定するのではなく、患者にかわって厚生省が医師と協議して定めるものとしています。今回の点数改定では3.3%の引き上げと発表されたが、薬価と材料費で2.1%の引き下げになっているので、正確には1.2%の引き上げというべきであるとしています。

医療経営の安定が改定の趣旨の一つであるならば、薬価基準と診療報酬とは一緒に扱われるべきであり、そのためには医療経済実態調査結果が使われてもよいはずであるが、そうでないところを見ると調査はセレモニーなのか。かりに薬価と報

酬は別だとすれば、内科再診料や慢性疾患指導管理料の引き上げ等、総収入補償型の改定は矛盾するのではないかと指摘しています。

診療報酬によって医療政策(医療供給システムと医療の質に関する政策)を行なうとき、価格誘導を行なわざるを得ない。しかし、患者にとってすべて現物給付であれば、どんな点数設定でもよいが、一部負担がある場合は患者の立場を無視する訳には行かないので、診療報酬を医療政策の手段とすることに限界がある事を指摘しています。

開放型病院の協同指導料が設定されたが、適用可能な病院は二病院と医師会病院のみであり、実際の意味はあまりないのではないかと。

診療情報提供料については、患者の病院志向が大である現在、診療所へ行って情報提供料をとられることになれば、患者は直接病院へ行くようになるかもしれない。院外処方料をも含め、これらについては「患者の同意」を必要とすべきではないか。また、診療所が紹介を必要とするのは入院に限る訳ではない、紹介の結果入院しなかった場合や、外来紹介の結果入院になった場合はどうなるのか、検査のために紹介した病院で「初診料」が算定されるというのも変ではないか、退院患者の紹介が「診療所」あてだけというのも妥当性をかく。

病院あてであっても、行為としては同じであろうという。医療と福祉の一体化の中での病院の位置づけが考慮されていないという指摘は鋭い。

再診料の病・診格差は一物二価であり、一物一価主義の現在の点数表と矛盾する。

新生児特定集中治療室管理、在宅酸素療法指導管理、在宅中心静脈栄養指導管理等、本来行政で行なうべきものを保険医療で行なうことの是非はもっと論じられてしかるべきだとしています。

この他、点数表の構成、診察料、指導料、入院料、投薬料、検査料、画像診断、処置、手術料等個々の診療行為の評価から見た問題点について、かなり大胆な批判が展開されています。紙面の都

合で総ては紹介できません。興味のある方々には「社会保険旬報No.1497」をお読み頂くようおすすめしておきます。

(堀田)

昭和60年度 学術部事業予定

4月

9日(火)㊦ 最近の高血圧治療について
順天堂大学腎臓内科講師

吉田 政彦先生

26日(金)㊦ 小児における抗生剤の使い方
国立小児病院 副院長

堀 誠先生

5月

14日(火)㊦ アレルギー性疾患に対する漢方療法

共済立 立川病院小児科部長

甲賀 正聡先生

28日(火)㊦ 上部消化器癌の早期診断とその予後 [石井]

東海大学医学部外科講師

幕内 博康先生

6月

18日(火)㊦ 大腸癌とその前癌病変
杏林大学医学部第一外科講師

[村山]

八木田旭邦先生

25日(火)㊦ 小児における整形外科で一般臨床医の知っておくべきこと。

杏林大学医学部整形外科教授

[エイザイ]

河路 渡先生[平尾]

7月

11日(木)㊦ 近年問題になっている有害動物 [塩澤]

東京医科歯科大学医学部医動物学教授 加納 六郎先生

23日(火)㊦ 消化器疾患のプライマリーケアー [市原]

帝京大学医学部第一外科講師

花上 仁先生

8月 は休講

9月

10日(火)㊦ 消化性潰瘍の治療 [小林]
杏林大学医学部第一外科助教授

北島 正樹先生

27日(金)㊦ ストレスと健康
東邦大学医学部心療内科教授

筒井 未春先生

時間 P.M. 7:30~

会場 羽村コミュニティーセンター

10月

未定日㊦ 骨粗鬆症 (東洋醸造)

未定日㊦ 頭痛 (吉富)[木村]

間中信也先生か喜多村孝一先生

11月

未定日㊦ 超音波検査法(主に腹部)[野本]

未定日㊦ 救急医療について

— 特に小児の救急医療 —

(住友製薬)[湯川]

12月・1月 は休講

2月

未定日㊦ A会員3題東・西・南各ブロックより一題づつ [松原]

3月

未定日㊦ B会員3題阿伎留・青梅・福生各病院より一題づつ [石井]

註1. ㊦ メーカー負担 4回

㊦ コーメデカル向講演会 1回

㊦ 研究会 消化器疾患シリーズ 4回

㊦ 講演会 4回 ㊦ 勉強会 2回

、一般向講演会1回は考慮中 計16回

2. 9月以降の講演会の順序は流動的です。

3. ():協賛メーカー []:担当者
担当者は(イ) 話題提供

(ロ) 会報に講演内容の概要を掲載

4. 研究会4回全部 三共が協賛する。

S 60. 4. 20 (塩澤 永康)

文 芸

老骨は 杞憂に 過ぐれば 幸ひにと 思ひつ

S D I 悪夢の過去の前夜の如くに

春うらら 貿易 攻勢 波高きなり 平和なれど

医療施設 倒産の 原因つくる 現状の

医人我ら 唯我が道を 辿り居て 気になることの多き世の中

彫刻の 手休め ふと見る 庭隅に 羅生門か ずら 群れて 咲く見ゆ

たまきはる 命をこめて 刻めども 幾日重ぬも 姿いまだし

日曜の 午后の 一と時 春日受け 佛陀彫みぬ 無我の 境地に

「太平洋上波高し 又々医療危機も」 小泉新策

各部より

公 衆 衛 生 部

松 原 貞 一

AIDS日本人患者発生

本年3月22日厚生省のAIDS（後天性免疫不全症候群）調査委員会は、アメリカ在住の日本人男性が昨年12月一時帰国した際、順天堂大学でAIDSと診断された症例を日本人患者1号と認定した。

患者の概要

1. 36歳の日本人男性
2. アメリカ在住のアーティスト
3. AIDS多発国で、多数の同性と頻回の性的関係をもっている
4. 一昨年同せい男性がAIDSで死亡
5. 易疲労・リンパ節腫張・関節痛・筋肉痛
6. リンパ球検査 Th/Tsの逆転(0.3)
7. LAV(AIDS関連ウイルス)に対する抗体が陽性

AIDSは1981年以来、アメリカで注目されているが、その2年半前から患者発生が知られ、1982

年からAIDSと呼ばれている。本症の本態はほぼ確定されたLAVが原因で、重篤な細胞性免疫不全を主徴とする。

1) 歴史

1981年6月ロスアンゼルスにて5例のカリニ肺炎が発生の報告があったが、その前2年半の間にニューヨーク・カルフォルニアで同性愛の男性からカポジ肉腫やカリニ肺炎の患者が発生していたことがわかり、この疾患が注目をされるようになった。1982年よりAIDSの診断名が使用されるようになり、以後アメリカを始めヨーロッパ諸国でも患者発見の報告がなされている。

2) 患者数・死亡者数

	アメリカ	ヨーロッパ(15国)
男	6,653(93%)	525(94%)
女	483(7%)	34(6%)

計	7,136人	559人
死者数	3,391(48%)	255(46%)

6) 予 後

全体の致死率48%、しかし診断後2年間の致死率は70%

3) 危険因子

	アメリカ	ヨーロッパ
ホモ又はバイセクシャル(男)	73%	77%
静脈注射などの薬物濫用者	17	2
ハイチ人	4	—
血友病患者	4	3
AIDS患者の配偶者	1	—
血液製剤輸注者	1	1
その他	4	17

7) 予 防

現時点ではB型肝炎予防対策に準じた対策をとるのが妥当

4) 病 因

ウイルスによる感染症であることが確認されつつあるが、通常の社会的接触によって伝播されるものではなく、感染機会はAIDS患者との性的接触や血液・唾液の媒介であり、空気感染・飛沫感染・飲食物感染の報告はなく、B型肝炎ウイルスの伝播と似ている

- a) AIDS患者との性的接触を避ける
- b) 患者発生地域へ海外旅行者は男性同性愛者や、静注薬物濫用者との性的接触を避ける
- c) 静注などによる薬物濫用者など医師の指示に基づかない注射を行わない
- d) 採血に当っては、注射針が一体となっている注射器を使用する。再処理可能な注射器の場合は、使用後次亜塩素酸ナトリウム液で消毒する。
- e) 採取した血液・分泌物には、注意の標示を付ける
- f) 食器は一般患者と同様に扱って可
- g) その他B型肝炎患者の扱いに準ずる

5) 臨床症状

前駆症として食欲不振・盗汗・不明発熱・易疲労・リンパ節腫張・関節痛・筋肉痛・下痢・体重減少などが現れ、続いて急激な免疫機能の低下に伴い、カリニ肺炎など日和見感染症、カポジ肉腫が出現する。

(以上は、

厚生省 後天性免疫不全症候群の実態把握に関する研究班の報告書
 東京都医師会感染症予防検討委員会 感染症トピックス "我が国にもAIDS患者"
 厚生省保健医療局感染症対策課長通達
 AIDS患者発生時の留意点
 などを抜粋・組合せ解説記事とした)

訂正とお詫び

会報149号(1985. 3. 1) 記事の中に下記のごとき誤りがありましたので訂正しお詫びします。

- 1 ページ10行目「かって」を「かつて」に
- 同 12行目「とどまない」を「とどまらない」に
- 同 18行目「とって」を「とっては」に

5 ページ 右下 表中「皮子病」を「皮膚病」に

- 6 ページ 4 行目 「脊柱」を「脊柱」に
 - 同 14行目 「時の流」を「時の流れ」に
- 以上

お し ら せ

会報八月消夏号の原稿を募集します。表紙の絵、写真や詩歌、随筆、短編小説等なんでも結構です。会報編集委員または医師会事務局宛お送り下さい。

診療報酬明細書返戻状況

1月分

返 戻 理 由		医科(乙表)件数			
		青 梅	福 生	秋 川	西多摩
1	保険者番号、記号○番号、公費負担者番号、市町村番号、受給者番号の不備又は保険者番号と記号の不一致	34	3	23	35
2	旧証の記号○番号	10	5	18	19
3	患者名、生年又は生年月のもれ	0	1	0	3
4	傷病名のもれ	1	4	0	0
5	診療月分、診療開始日、診療実日数、転帰のもれ	1	1	1	1
6	診察料(初診、再診、往診又は時間外等の表示)のもれ	0	0	1	0
7	診療月と診療開始日及び初診料の不一致	0	0	1	17
8	診療実日数と診察回数又は処方回数の不一致	7	7	8	9
9	投薬○注射(薬名、規格単位、用量、回数)の不備	0	0	2	0
10	処置○手術○検査○X線(薬名、回数、内訳)の不備	7	0	2	0
11	入院料の不備	0	0	0	0
12	点数欄記入もれ又は点数算出根拠不明	2	3	0	0
13	契約外(国保、国鉄、公費等)	1	0	0	1
14	症状詳記(診療内容及び方針の説明等付せん参照)	1	0	0	1
15	医療機関(薬局)の申し出によるもの	2	0	0	0
16	その他	1	0	0	1
計		62	24	56	87

2月分

返 戻 理 由		医科(乙表)件数			
		青 梅	福 生	秋 川	西多摩
1	保険者番号、記号○番号、公費負担者番号、市町村番号、受給者番号の不備又は保険者番号と記号の不一致	30	8	22	19
2	旧証の記号○番号	15	7	15	13
3	患者名、生年又は生年月のもれ	2	1	0	0
4	傷病名のもれ	0	1	0	1
5	診療月分、診療開始日、診療実日数、転帰のもれ	4	5	4	14
6	診察料(初診、再診、往診又は時間外等の表示)のもれ	1	1	0	0
7	診療月と診療開始日及び初診料の不一致	4	3	0	8
8	診療実日数と診察回数又は処方回数の不一致	2	1	1	6
9	投薬○注射(薬名、規格単位、用量、回数)の不備	3	2	0	2
10	処置○手術○検査○X線(薬名、回数、内訳)の不備	2	0	0	0
11	入院料の不備	0	0	1	1
12	点数欄記入もれ又は点数算出根拠不明	2	2	0	1
13	契約外(国保、国鉄、公費等)	2	0	0	0
14	症状詳記(診療内容及び方針の説明等付せん参照)	0	1	0	0
15	医療機関(薬局)の申し出によるもの	1	0	0	0
16	その他	7	1	2	1
計		75	33	45	66

また、今回は前青梅市立総合病院長の大橋先生が初参加されました。スコア的にはまだまだですが、オトシに似合わず良いスイングをされているので、今後が楽しみです。

今回も高水先生に無理を云ってしまいましたが、今後もしっかりと御願ひ致します。

(足立)

	I	O	G	HO	N		新HD
工藤	41	44	85	18	67	優勝	12
堤	51	48	99	26	73	準優勝	23
足立	43	47	90	17	73	3	16
杉本	52	45	97	20	77	4	
大嶽(繁)	52	54	106	28	78	5	
後藤	46	47	93	14	79	6	
江本	46	51	97	18	79	7	
宇田	49	46	95	15	80	8	
林	41	49	90	10	80	9	
松原	55	47	102	21	81	10	
鈴木	49	46	95	13	82	11	
葉山	52	50	102	18	84	12	
川崎	58	58	116	27	89	13	
高水	56	54	110	20	90	14	
内山	52	53	105	15	90	15	
大嶽(栄)	59	48	107	11	96	16	
丸茂	68	65	133	35	98	B・B	
大橋	79	82	161	36	125	18	

あ と が き

開業して二年目を迎え、薬価切り下げ、本人一部負担金等 今後 医療に対する厳しさも感じられるこの頃です。久しぶりに晴天となった今日の昼休みの事。心不全及び喘息老人患者宅より往診の依頼有り。患者宅の青々とした木々のある庭を見ながら、縁側よりまず老人を視診。著変ない様子に一安心。老人は起立して頑張ってみせる。

血圧測定、聴診中もこの老人、日頃の体の調子を説明する。それでも多分、考えている一部しか話していると思っていないのだろう。

次に万年床の回りにある常備薬を取り出し、薬の飲み方を説明。八十四才と思えぬ記憶力で一剤一剤の効果を医者側からみて的確に説明する。

こんな中で、自分も老人の最近の調子が把握出来てくる。老人宅での約一時間。しだいに自分の気持も "一時の休息" を老人から与えられている様な、気分となってくる。老人のしゃべる「六十才の息子が肩を揉んでくれて笹川会長みたいだ」とか、「婆さんがうるさくて困る」(実際は非常に面倒見が良いが)とか、言葉の端々に、この老人の余生の素晴らしさを垣間見る。いつのまにか、老教師より「人生論の講義と成っている次第である。

帰りの車では、自分の頭の中は、あたかも清涼飲料水でも飲んだ様な気分となっていたのである。

(小林)

トピック & おしらせ

★諸般の事情により会報の発行が、毎月すこしづつ遅延して来ていました。4月22日の会報編集委員会、やむを得ず本号を二ヶ月合併号として発行することになりました。

★毎月掲載してある診療報酬明細書返戻状況に御注意下さい。返戻理由の約6割が記号、番号の不備によるものです。目標、返戻ゼロ!

★西多摩青色申告会医師会支部では、4月24日、定例総会開催へ向けて幹事会が開かれました。

★町田市医師会(南多摩)では今度、あらたに町田市における地域医療計画を作ることになり、計画作成の方法論等について参考意見など聞きたい旨問い合わせがありました。5月4日(土)当医師会地域医療委員会から、植田 稔委員長ほか一名が

出向し、「西多摩地域医療計画-1984-」作成に関する資料を提供、経験談等を説明し懇談しました。

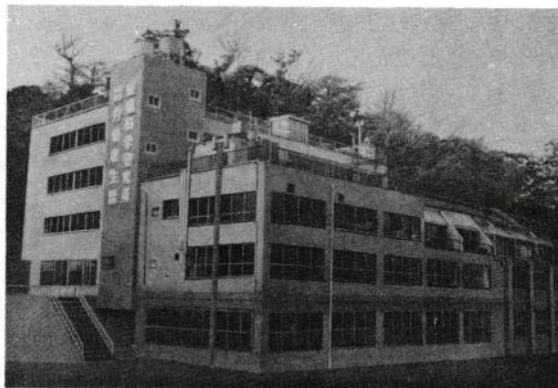
★4月25日、青梅市医師会(江本虎雄会長)の定例総会が開かれました。昭和59年度の報告、決算および60年度の活動計画、予算等について審議承認されました。

★5月24日(金)午後8時から、北多摩医師会館において、「三多摩医師会広報研究会」が開催されます。今回は西多摩医師会が当番です。テーマを募集しています。医師会事務局まで。

★5月25日(土)午後2時から社団法人西多摩医師会臨時総会が開かれます。昭和59年度の決算その他、重要な審議案件があります。多数会員のご出席をお願いいたします。

臨床検査センターの雄 保健科学研究所

横浜市保土ヶ谷区神戸町106
電話 045 (333) 1661 (大代表)
八王子市子安町3-17
電話 0426 (26) 2203・2204



- 総合臨床検査センターとして20余年間地域医療に貢献し、絶大な信頼を頂いています。
 - 完全オンラインシステム化を実現致しました。(データー通信システム)
 - 関係医療機関 約 3,500ヶ所
 - 広範囲な検査内容
 - 内分秘学検査●免疫学検査●ウイルス検査●生化学検査●血清学検査●血液学検査
 - 病理組織検査●細胞診検査●重金属検査●水質検査
- ！都川県の御得意先を毎日定期的集配致します。御一報を御待ち致しています。

くらしの知恵と情報を
ホームバンクの埼玉銀行



埼玉銀行

青梅支店 (TEL 0428-22-1101)
東青梅支店 (TEL 0428-22-2121)
青梅支店 (TEL 04288-3-2515)
奥多摩特別出張所

福生支店 (TEL 0425-51-1021)
村山支店 (TEL 0425-61-1211)
五日市支店 (TEL 0425-95-1311)
河辺支店 (TEL 0428-24-2401)